

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100843		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい戸坂東		
所在地	広島県広島市東区戸坂千足1丁目12-46 (電話) 082-220-3000		
自己評価作成日	令和3年12月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100843-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100843-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年3月11日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

「安定した価値あるサービスの提供」を軸に、利用者様がその人らしくあたり前の生活を送って頂けるよう、職員はホスピタリティマインドの醸成に努め、家族様と共に利用者様を支え、地域密着型として「共に在る」を実践しています。地域連携にも力を注ぎ、住民の皆様へ認知症の理解を深めて頂けるようサポーター養成講座に出向き交流を図っています。事業所ではユニットを超え一つの家として柔軟に対応し、施設全体での複合生活に取り組んでいます。又、法人の医療と看護、訪問歯科・マッサージ等で、皆様の健康管理や急変時に備え安心安全な体制を整えています。コロナ禍においても無理のない行事を実施し、潤いと彩りを乗せ、チームで成せるスマイル・イン・ケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

生活づくりの10カ条、目指すべき方針が明確で、全体の教育システムを確立している。個々のライフストーリー、生活史を大切に、個々の想いや意向に沿った支援に努めている。日頃の生活から、例えば座る姿勢が保てる方は、排泄時はトイレに座るなど、自立支援に向けたケアを実践している。職員同士が話しやすく、意見・要望を管理者は前向きに受け止め、運営に活かしている。わくわくする職場づくりの方針として、リフレッシュ休暇を7日連休で取得できる取り組みをしている。人材育成の一貫として、今年度は年間を通して『接遇』研修の充実を図っている。利用者の健康管理や病状変化に於いても即対応できる体制を整えており、最期までその人らしく過ごせるよう医療を含むチームケアの向上に尽力している。新型コロナウイルス感染症が終息すれば、以前行っていた、旅行や家族会の再開をしたいと考えている。

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	地域密着型サービス事業所としての行動指針・法人の基本理念・運営方針を事業所計画の重点項目として掲げ、申し送り時に唱和・共有、その日の個々の目標と連動させ実践に繋いでいる。	事業計画、事業報告を作成している。毎日の申し送り時に生活づくりの10カ条、行動指針を唱和し、意識統一をしている。理念をもとに個々の目標を掲げて、取り組んでいる。今年度は、言葉遣い、マナー向上を図る目的で『接遇』研修の充実を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍において、夏、秋祭り・猪子等地域行事の参加や近隣のスーパー・レストラン等と接点を持つことは中止されたが、近くの公園や寺院への参拝に出向き戸外での地域交流が行われている。外周清掃時には地域の一員として日常的に挨拶を交わし関係を築いている。	気候が良ければ周辺にある公園やお寺にお参りに行き交流を図っている。認知症についての講座など講師を担っており、地域住民の理解、周知を更にひろめようとする姿勢がある。以前は、夏祭り、秋祭り、猪子など地域行事に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症についての講座にて講師を務め、認知症の理解や支援方法等実践に基づいた認知症サポーター養成講座を行っている。電話や訪問等での相談事にも誠意をもって対応し地域の人々に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の報告や議事録は家族様に必ず報告し、その内容における意見交換を実施している。今年度はコロナ禍において書面での報告のみとし、関係者様にはご意見を頂戴した。貴重なご意見はサービスに反映するよう努めている。	現状下では当会議を書面にて行っている。書面を郵送せず、委員の所に訪問し、意見を頂くようにしている。本来の会議では、地域包括支援センター職員、近隣の事業所3カ所、利用者、家族が参加をしている。今後、再開すれば地域の町内会長、民生委員参加の依頼を考えている。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険申請等市町の窓口を訪ね関係を構築するよう心掛けている。又積極的に相談を行いアドバイスを受けている。地域包括支援センターとは密に連携を図り良い関係が築けている。認知症サポーター養成講座の依頼等受け協力関係を深めるよう取り組んでいる。	疑問点を問い合わせたり、介護保険の申請、認定調査、事故報告書の提出など、相談・手続きなどで連携し、協力関係を築いている。認知症サポーター養成講座の依頼を受けている。地域包括主催の多職種連携会議など情報共有を行っている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止委員会を設置し拘束の危険性や、どのような行為が拘束にあたるのか、研修や勉強会等で定期的に学び実践に繋いでいる。意識の徹底にも努め拘束をしないケアを実践している。	年2回の研修を通して、身体拘束をしないケアを目指し取り組んでいる。毎月の身体拘束禁止委員会を開催し、運営推進会議で報告をしている。ケース検討など職員間で更に深め、利用者に寄り添うことにより、スピーチロックを含めた身体拘束をしないケアを日々実践している。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を設置し定期的に研修を重ね学んでいる。どのような行為が虐待にあたるのかを知り問題の解決案を探るなど全職員が共有、周知徹底している。絶対に行わないことを基本とし、撲滅を図っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度の理解を研修等で学び、具体的なニーズが発生した場合は、必要とされる制度利用について分かりやすく説明し、関係者が活用できるよう支援している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書及び契約書、同意書等提示し、対面にて具体的に丁寧な説明をするようにしている。利用者様自身や家族様からの不安や疑問点等、相手の立場に立ち可能な限り解決に向け話し合い、納得が得られるよう努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年2回の家族会もコロナ禍で順延となったため電話やFAX、オンライン面会時等でご意見を頂戴している。メールでのやり取りも数件あり定着している。頂いたご意見等運営に反映するようスタッフ間で共有し外部者へも発信している。	感染状況を踏まえて、リモートオンライン面会、窓越し面会、電話やFAX、手紙で日々様子を知らせている。意見・要望があれば些細な事柄も即対応するようにしている。頂いた意見などは運営推進会議で報告をしている。コロナ禍前は、家族会を年2回開催し、意見の反映に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者も職員と共に介護業務を行い、全体会議やミーティング・申し送りノート・又は個別メモにて個々の意見や要望、提案を聞く機会を設けている。優先順位に拘らずリアルタイムで聞き取ることができるよう、溝をつくらぬ待機姿勢に努めている。必ず話し合って運営に反映している。	各種会議に加え、各職員の評価基準を用いて、個人目標を作り上げ、必要時に個人面談の実施をしている。『わくわくする職場づくり』の方針として、リフレッシュ休暇を7日連休で取得できる取り組みをしている。OJT制度、EPA（経済連携協定）外国人介護人材の受け入れをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の評価制度を設け賞与・役割給・昇進・昇格・人材育成等、又異動配置にも反映させる仕組みを整え、やりがいや向上心を持って働ける職場環境となっている。外部研修制度も設け費用の補助が受けられる。リフレッシュ休暇7日連休の取り組みも定着している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJT制度を設け、新入職員や中途採用者にも育成のシステムを講じている。法人内での年間を通して組み立てられた研修では、個人の都合で働きながら自由に選べる仕組みとなっている。外部研修補助制度も、意欲やスキルアップを応援する制度が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括主催多職種連携会議等で情報共有を行い、交流の機会となっている。参加者共々ネットワークの枠を広げ、同業者との交流や意見交換で学んだサービスの質の向上を持ち帰り運営に活かす取組をしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面接時には本人様とのコミュニケーションに重点を置き、サービス利用に関する心情や意向をお聴きし、その人らしさにスポットを充てるようにしている。安心の確保に向け信頼感を持って頂けるよう接し方に気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前事前面談の段階で、家族様のサービスに対する思いや要望、不安なことなど相手の立場に立って細かくお伺いし、思いを汲み取りながら信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談や電話での相談時に状況を見極め、本人様や家族様に今必要な支援を伺い意向に添ったサービスの利用ができるよう努めている。他施設のサービス状況も同時に把握し、適切な支援が提供できるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自立支援を念頭に置き「共に在る」を基本の姿勢とし、尊敬の念を忘れず意志や人格を尊重するよう努めている。ご自分でできる事は行っていただき、できないところをそっと手助けする自立支援に向けた暮らしを支える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様の不安や心配事を伺い、ケアの方向性を一緒に考え、共に支えていく関係の構築に務めている。外泊・外出時等ご協力頂き、行事へも参加される等絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者様の知人、友人がホーム近くに住まいが多い為、訪問を受ける等関係が続いていたが、コロナ禍において中断、現在はリモート面会や電話等で交流を繋いでいる。関係が途切れないよう年賀状等の行き来も継続している。	知人、友人など利用者の大半の方がホーム近くに住んでいる。日々の散歩時にも馴染みの風景と共にエピソードを交えながら近所との関係性やつながりを大切にしている。利用開始時の情報を活用し、家族や知人、友人との手紙や年賀状のやり取りをして旧知の関係を継続している。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の関係性を把握した席配置や会話が弾むよう、その時々に合わせて配置交換を行い対応している。ユニット合同の遊びりテーションやレクリエーションも取り入れ、全体での交流が日常となった環境作りを行っている。合同食事等、自然体で支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も電話やメール、来所にて相談・報告を受けるケースは多い。可能な限り柔軟に対応し、これまでのご縁を大切にしている。近くのスーパーや商業施設等で出会うこともよくある。又、行事に参加いただいたり、家族様の想いに添えるよう努めている。近況を知らせてくださる家族様もある。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の想いを汲み取り、しっかりと寄り添う機会を少しでも多く設け、生活に反映できるよう努めている。意志の疎通が困難な方には、その方の人生史を掘り下げ、家族様のご協力を得ることで本人様の代弁者となれるようにしている。本人本位の意向を尊重したうえで、添えるよう努めている。	個々のライフストーリー、生活史を大切にし、出来る限り希望に近づけるように努めている。日頃の会話や仕草・表情などから想いを受け止め、記録に記し職員間で共有している。ケアの心掛けとして、例えば本人にとって苦痛にならない介護方法に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にライフストーリーシートでの情報収集をご負担にならない程度にお願いし、その人らしい生活スタイルの把握に努めている。これまでのサービス利用経過等は家族様からの情報提供を頂いている。関係各所からも家族様に同意頂き情報収集し経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりのその人らしい過ごし方を現状に即した状況で毎日細やかに観察を行い、生活状況表に記入し把握・共有している。心身状態や有する力等、生活に視点に置き、日々の変化を見落とさないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>担当者が主に情報収集を行い、全職員で共有し、意見を出し合って現状に即した原案の作成につないでいる。本人様の意向、家族様の意向、関係者も交え話し合い、プランの作成を行っている。モニタリングは毎月1回実施し、随時見直しが行われている。</p>	<p>担当者の情報をもとに、利用者・家族の意向を踏まえ、計画作成者が介護計画の原案を作成している。本人にとっての介護計画のため、可能な方は、長期目標を本人に決めて頂いている。『その人らしい、私が決める』を主眼に多職種の意見やアイデアが反映された計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>活動の記録や介護の実績、本人様の発した言葉や体調など生活状況表に記録し、更に工夫したいことや成功事例等全職員で共有、現場への反映・実践・見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その人らしい生活を支援するという視点で、可能な限り柔軟に対応している。サービス外のニーズにも多職種連携を図り個別性の高いサービスを支援している。柔軟な対応には家族様の満足度が高く、今後も多機能化に取り組んでいく。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>周辺のフォーマル・インフォーマルを問わず、医療、消防・警察との共助、連携を図り、安全で快適に暮らしていけるよう努めている。馴染みのある店や場所にランチ外出、行事外出、買い物、ドライブ等、豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>馴染みの主治医との関係性は継続し、法人の主治医が本人様・家族様の希望を傾聴しながら、スムーズな受診ができるよう支援している。専門医への受診は本人様、家族様の要望に添い、納得が得られた受診を心掛け、適切な医療を受けられるよう支援している。家族様の要望で職員が付き添う場合もある。</p>	<p>2週間に1回の往診体制や、24時間連絡体制を整えている事もあり、利用開始時に法人内の医師に変更する方が多い。他の専門医への受診は、家族対応を基本としているが職員が付き添い対応することも可能である。週1回の訪問歯科と必要に応じた医療が受けられる体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師が定期的、且必要時に来所し、体調や状態の変化について職員と共有・連携を図り健康管理を行っている。又、24時間いつでもオンコール体制で医療面での協働を保ち、受診や看護が受けられるよう体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医師からの紹介状だけでなく管理者や介護士が付き添い日頃の様子や急変時の状態について説明している。入院後の面会では入院先の看護師と連携を図り情報共有、スムーズな退院に結び付けている。入退院支援室関係者とは日頃より情報交換を行い良好な関係の構築が出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの説明を行い積極的な看取りを行っている。職員は終末期の研修を受け、住み慣れた場所で最後まで暮らせるよう体制を整えている。又、家族様の不安を少しでも取り除き納得のいく終末期となるよう密に話し合い、週に一度のカンファレンス開催、方針を共有した家族様とチームで共に支えるケアに取り組んでいる。	契約時、重度化、終末期に向けての指針を説明し、意向の確認をしている。重度化した場合、その都度家族や医療関係者と方向性をよく話し合い、職員全員で心のこもった穏やかな終末期ケアに努めている。事例として、看取り支援をする中で、心身状態が向上したケースがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人内研修にて急変時や事故発生に備えた訓練を定期的を受け、実践につないでいる。又、医療職とも連携を図り、指導・助言に基づいた落ち着いた対応で慌てないような実践力を身につけている。応急手当や初期対応なども発生時に備えマニュアルでも学び、実践に活かしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	要配慮者利用施設避難確保計画に基づき訓練を実施している。参加可能な利用者様も消防署員の指導を受け職員と一緒に参加されている。近隣施設との共助協定も交わされており、昼夜を問わず避難できる方法を全職員が身につけている。	年2回、夜間想定を含め避難訓練が行われ、訓練時は消防署、民間警備会社の立ち会いで行っている。ハザードマップ上では危険区域では無いが、水害時には垂直避難する行動計画を作成している。災害時用備蓄品、7日分準備している。近隣事業所との共助協定も交している。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭においた言葉かけや対応にて利用者様の人格を尊重している。又、敬う寄り添いに努め、誇りやプライバシーに配慮している。個人情報法の法令順守には人格の尊厳が保持されている。仲良しの利用者様でも一人ひとりの想いに沿った言葉をかけている。	年間研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制を整えている。利用者に対する言葉かけも不適切な対応にならないように、今年度は、法人全体一年間を通して、『接遇』研修の充実を図っている。居室に暖簾を使用したりとプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	受容と共感の姿勢を崩さず、利用者様が自己決定できるような雰囲気作りを行い、本人様の思いや希望を自由に表出できる話しやすい環境を作っている。想いの表出が困難な方へはその人の立場にたって考え、想いを汲むよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一律スケジュールの生活スタイルではなく利用者様の状況や希望に沿った支援に努め、その人のペースやリズムを大切に生活を送って頂いている。生活全般個性を重視したその人らしい時間の流れに重点をおいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に訪問理美容が入りその方や家族様の好みの整容がなされている。コロナ禍で馴染みのお店には出かける事ができなかったが日常では服を選んで頂くなど、おしゃれには自己決定が反映されている。言葉が発せられない方でも目で見てもらいコンタクトをとって支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	楽しい食卓の雰囲気作りを心掛け、盛り付け・配膳下膳・食器洗いも職員と一緒にしない男性の利用者様が食器洗いを手伝って下さることもある。テーブルや座席にも工夫をしユニット合同で食卓を囲み楽しんで頂くことも頻繁にある。彩り豊かな食事の工夫をし、目で見て楽しんで頂けるよう配慮している。	栄養バランスの取れた配食サービスを利用している。おかずやデザートを一品追加する事もあり喜ばれている。行事の時には、お酒の雰囲気が楽しめるノンアルコールビール、ノンアルコールカクテルの提供をしている。スポンジケーキと一緒にトッピングをするなど楽しみがある支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事や水分摂取の重要性について職員が理解し必要量の確保に努めている。その人の習慣や状態に合わせた栄養補助食品や嗜好品等も取り入れ個性を重んじている。坐位姿勢や環境も工夫し、自分の力で食事ができるよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアは欠かさず行っている。又訪問歯科往診を受け口腔衛生管理が行われ歯科医より指導を受けている。本人様の口腔状態に合わせ数種類のブラシやウェットティッシュ等を使用し衛生に努めている。食前の口腔体操も欠かさず口腔内機能の低下に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>それぞれの排泄パターンを把握し誘導を行ない、入居前の排泄方法に拘らずその人の力や思いを汲んで気持ちの良い排泄を支援している。オムツは使用せず、紙パンツもできるだけ使わないようにし、布パンツでの自立支援も行っている。前傾保持ができるファンレストテーブルも使用している。</p>	『生活づくり10カ条』にある、『まず座る』にて、トイレに座る、本人の状態像に合わせた排泄の自立支援を行っている。トイレには無理なく排泄出来るよう前傾姿勢が保持出来るテーブルを設置している。入院中は紙おむつであったが、布パンツへ移行した例がある。	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>適切な水分摂取、適度な運動、食後のトイレ誘導等日々心がけ、自然排便ができるよう働きかけている。又医療職とも連携を図り便秘予防対策を行っている。繊維質の多い食事や、牛乳、ヨーグルトなど毎日提供し個々に応じた対応をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>可能な限り希望に沿った入浴の支援をしている。時間や場所、曜日等、取り決めは行わず納得の上で自由に入浴して頂いている。別フロアでの入浴は、形状に合わせ、今日ほどっちで入るか等楽しんで選んでいただき、仲良し入浴もある。</p>	週2～3回午後からの入浴としている。衣類などが汚れた場合はシャワー浴を行い、入浴が難しい場合は清拭を行っている。リラックス効果のある、足浴、手指浴を適宜行っている。1階と2階の浴室の形状が異なるため、本人に選んで頂いている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居前の生活スタイルを壊さな いよう起床や就寝時間は要望に 合わせている。日中の午睡や居 室での休息も気兼ねなく出来る よう、その人の習慣やその時の 状況に寄り添うよう努めている。 気持ち良く眠れるようその人の 望む環境整備も欠かさないように している。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬リストは全職員がいつでも どこでもすぐに確認できる場所 にファイルされている。又、薬の 理解に努め、症状の変化などが 見られた場合には先ずファイル で確認後、職員で連携を密に 図り速やかに医療職への連絡を 行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	役割や楽しみ事、嗜好品をアセ スメントし、ケアプランへ反映さ せ、日々の生活の中で継続しな がら達成に向けての気分転換が できるように支援している。個 別性を取り入れた支援を意識的 に取り入れている。新聞の購読 を楽しみ、配達を個別で頼まれ ている方も複数名ある。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	天気の良い日は戸外に出かける よう努めている。近くのお寺へ お参りしたり散歩や外出等希望 に沿っている。本人様の生活歴 を把握し、普段は行けない場所 でも家族様のご協力外出でき ているが、今年度もコロナ禍に て回数が縮小された。	気候が良ければ散歩や、お寺 にお参りをしている。外出自粛 中でも紅葉狩り、お花見など行 い、外気浴、季節を感じる取り 組みをしている。来月、4月には 、法人の車両を利用してお花見 に行く準備をしている。コロナ 禍前は、一泊旅行、日帰り旅行 と多くの場所に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	希望や能力にあわせ買い物が 出来るよう家族様同意のうえ支 援している。近くのコンビニエ ンスストアへ一緒に出かけ、本 人様が希望の品を選んで購入 することもある。本人様の力に 応じたお金を所持し、支払い 出来るよう傍に寄り添っている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人様が携帯電話を所持しているケースが複数ある。発信、受診、通話等間に入りトラブルにならないよう努めている。又手紙や年賀状等直筆で書いて頂く事を支援し、大切な人との関係を絶やさないようにしている。本人様の希望に沿い、可能な限り家族様との通話を支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースにも空気清浄機や加湿器を設置し快適に過ごしていただけるようにしている。空間には季節に応じた旬の花や置物を飾り季節感を演出している。混乱を招く様な物品等を除き、生活感のある居心地の良い共有空間づくりに努めた環境整備の工夫をし、定期的な見直しも行っている。	温度や湿度を気にかけて、共有スペースにはゆったりとした時間を過ごせるようソファを設置している。玄関は、利用者が生けた花を飾っている。下腿長などを測定し、机や椅子の高さなど利用者に配慮しての空間づくりをしていて工夫がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースには食卓用のテーブルや椅子の他、違ったタイプのソファを2台置くことで思い思いに過ごして頂けるよう環境を整えている。その他玄関先のベンチでも気分を変えて過ごして頂いている。利用者様の希望で席替えや配置替えを行い、思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのある家具や物品等持参して頂けるよう家族様に依頼し、本人様の思いを生かした居心地の良い居室作りに努めている。大切な人の写真や作品等も自由に飾って頂き入居前のお住まいに近い形で家族様のご意向も取り入れた居室レイアウトを施し、安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。	ベット、ポータブルトイレ、車いすなどの福祉用具は事業所が準備している。本人の身体状況に応じて家具やベッドの位置などレイアウトを設置している。携帯電話、パソコンなど基本的には自由に持ち込みできる。生活習慣にも配慮し、安心して過ごして頂けるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	人感センサーを主に使用し安全に生活できるようにしている。トイレや居室の位置は分かり易いように目印を付けている。車椅子のその方の目線に合わせた位置に表札を付ける工夫をし、できることやわかる事に活かせるようにしている。待つ姿勢と見守り・寄り添いで自立支援をサポートしている。		

V アウトカム項目( 1階 A棟 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービス事業所としての行動指針・法人の基本理念・運営方針を事業所計画の重点項目として掲げ、申し送り時に唱和・共有、その日の個々の目標と連動させ実践に繋いでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍において、夏、秋祭り・猪子等地域行事の参加や近隣のスーパー・レストラン等と接点を持つことは中止されたが、近くの公園や寺院への参拝に出向き戸外での地域交流が行われている。外周清掃時には地域の一員として日常的に挨拶を交わし関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症についての講座にて講師を務め、認知症の理解や支援方法等実践に基づいた認知症サポーター養成講座を行っている。電話や訪問等での相談事にも誠意をもって対応し地域の人々に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の報告や議事録は家族様に必ず報告し、その内容における意見交換を実施している。今年度はコロナ禍において書面での報告のみとし、関係者様にはご意見を頂戴した。貴重なご意見はサービスに反映するよう努めている。		
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険申請等市町の窓口を訪ね関係を構築するよう心掛けている。又積極的に相談を行いアドバイスを受けている。地域包括支援センターとは密に連携を図り良い関係が築けている。認知症サポーター養成講座の依頼等受け協力関係を深めるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束禁止委員会を設置し拘束の危険性や、どのような行為が拘束にあたるのか、研修や勉強会等で定期的に学び実践に繋いでいる。意識の徹底にも努め拘束をしないケアを実践している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止委員会を設置し定期的に研修を重ね学んでいる。どのような行為が虐待にあたるのかを知り問題の解決案を探るなど全職員が共有、周知徹底している。絶対に行わないことを基本とし、撲滅を図っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度の理解を研修等で学び、具体的なニーズが発生した場合は、必要とされる制度利用について分かりやすく説明し、関係者が活用できるよう支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書及び契約書、同意書等提示し、対面にて具体的に丁寧な説明をするようにしている。利用者様自身や家族様からの不安や疑問点等、相手の立場に立ち可能な限り解決に向け話し合い、納得が得られるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回の家族会もコロナ禍で順延となったため電話やFAX、オンライン面会時等でご意見を頂戴している。メールでのやり取りも数件あり定着している。頂いたご意見等運営に反映できるようスタッフ間で共有し外部者へも発信している。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者も職員と共に介護業務を行い、全体会議やミーティング・申し送りノート・又は個別メモにて個々の意見や要望、提案を聞く機会を設けている。優先順位に拘らずリアルタイムで聞き取ることができるよう、溝をつくらない待機姿勢に努めている。必ず話し合って運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の評価制度を設け賞与・役割給・昇進・昇格・人材育成等、又異動配置にも反映させる仕組みを整え、やりがいや向上心を持って働ける職場環境となっている。外部研修制度も設け費用の補助が受けられる。リフレッシュ休暇7日連休の取り組みも定着している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJT制度を設け、新入職員や中途採用者にも育成のシステムを講じている。法人内での年間を通して組み立てられた研修では、個人の都合で働きながら自由に選べる仕組みとなっている。外部研修補助制度も、意欲やスキルアップを応援する制度が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括主催多職種連携会議等で情報共有を行い、交流の機会となっている。参加者共々ネットワークの枠を広げ、同業者との交流や意見交換で学んだサービスの質の向上を持ち帰り運営に活かす取組をしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面接時には本人様とのコミュニケーションに重点を置き、サービス利用に関する心情や意向をお聴きし、その人らしさにスポットを充てるようにしている。安心の確保に向け信頼感を持って頂けるよう接し方に気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前事前面談の段階で、家族様のサービスに対する思いや要望、不安なことなど相手の立場に立って細かくお伺いし、思いを汲み取りながら信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談や電話での相談時に状況を見極め、本人様や家族様に今必要な支援を伺い意向に添ったサービスの利用ができるよう努めている。他施設のサービス状況も同時に把握し、適切な支援が提供できるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自立支援を念頭に置き「共に在る」を基本の姿勢とし、尊敬の念を忘れず意志や人格を尊重するよう努めている。ご自分でできる事は行っていただき、できないところをそっと手助けする自立支援に向けた暮らしを支える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様の不安や心配事を伺い、ケアの方向性を一緒に考え、共に支えていく関係の構築に務めている。外泊・外出時等ご協力頂き、行事へも参加される等絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者様の知人、友人がホーム近くに住まいが多い為、訪問を受ける等関係が続いていたが、コロナ禍において中断、現在はリモート面会や電話等で交流を繋いでいる。関係が途切れないよう年賀状等の行き来も継続している。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の関係性を把握した席配置や会話が弾むよう、その時々に合わせて配置交換を行い対応している。ユニット合同の遊びりテーションやレクリエーションも取り入れ、全体での交流が日常となった環境作りを行っている。合同食事等、自然体で支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も電話やメール、来所にて相談・報告を受けるケースは多い。可能な限り柔軟に対応し、これまでのご縁を大切にしている。近くのスーパーや商業施設等で出会うこともよくある。又、行事に参加いただいたり、家族様の想いに添えるよう努めている。近況を知らせてくださる家族様もある。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の想いを汲み取り、しっかりと寄り添う機会を少しでも多く設け、生活に反映できるよう努めている。意志の疎通が困難な方には、その方の人生史を掘り下げ、家族様のご協力を得ることで本人様の代弁者となれるようにしている。本人本位の意向を尊重したうえで、添えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にライフストーリーシートでの情報収集をご負担にならない程度にお願ひし、その人らしい生活スタイルの把握に努めている。これまでのサービス利用経過等は家族様からの情報提供を頂いている。関係各所からも家族様に同意頂き情報収集し経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりのその人らしい過ごし方を現状に即した状況で毎日細やかに観察を行い、生活状況表に記入し把握・共有している。心身状態や有する力等、生活に視点に置き、日々の変化を見落とさないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者が主に情報収集を行い、全職員で共有し、意見を出し合って現状に即した原案の作成につないでいる。本人様の意向、家族様の意向、関係者も交え話し合い、プランの作成を行っている。モニタリングは毎月1回実施し、随時見直しが行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	活動の記録や介護の実績、本人様の発した言葉や体調など生活状況表に記録し、更に工夫したいことや成功事例等全職員で共有、現場への反映・実践・見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その人らしい生活を支援するという視点で、可能な限り柔軟に対応している。サービス外のニーズにも多職種連携を図り個別性の高いサービスを支援している。柔軟な対応には家族様の満足度が高く、今後も多機能化に取り組んでいく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	周辺のフォーマル・インフォーマルを問わず、医療、消防・警察との共助、連携を図り、安全で快適に暮らしているよう努めている。馴染みのある店や場所にランチ外出、行事外出、買い物、ドライブ等、豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	馴染みの主治医との関係性は継続し、法人の主治医が本人様・家族様の希望を傾聴しながら、スムーズな受診ができるよう支援している。専門医への受診は本人様、家族様の要望に添い、納得が得られた受診を心掛け、適切な医療を受けられるよう支援している。家族様の要望で職員が付き添う場合もある。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師が定期的、且必要時に来所し、体調や状態の変化について職員と共有・連携を図り健康管理を行っている。又、24時間いつでもオンコール体制で医療面での協働を保ち、受診や看護が受けられるよう体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医師からの紹介状だけでなく管理者や介護士が付き添い日頃の様子や急変時の状態について説明している。入院後の面会では入院先の看護師と連携を図り情報共有、スムーズな退院に結び付けている。入退院支援室関係者とは日頃より情報交換を行い良好な関係の構築が出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの説明を行い積極的な看取りを行っている。職員は終末期の研修を受け、住み慣れた場所で最後まで暮らせるよう体制を整えている。又、家族様の不安を少しでも取り除き納得のいく終末期となるよう密に話し合い、週に一度のカンファレンス開催、方針を共有した家族様とチームで共に支えるケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人内研修にて急変時や事故発生に備えた訓練を定期的に受け、実践につないでいる。又、医療職とも連携を図り、指導・助言に基づいた落ち着いた対応で慌てないような実践力を身につけている。応急手当や初期対応なども発生時に備えマニュアルでも学び、実践に活かしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	要配慮者利用施設避難確保計画に基づき訓練を実施している。参加可能な利用者様も消防署員の指導を受け職員と一緒に参加されている。近隣施設との共助協定も交わされており、昼夜を問わず避難できる方法を全職員が身につけている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭においた言葉かけや対応にて利用者様の人格を尊重している。又、敬う寄り添いに努め、誇りやプライバシーに配慮している。個人情報法の法令順守には人格の尊厳が保持されている。仲良しの利用者様でも暖簾を使用し、ドアが開いた状態でのプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	受容と共感の姿勢を崩さず、利用者様が自己決定できるような雰囲気作りを行い、本人様の思いや希望を自由に表出できる話しやすい環境を作っている。想いの表出が困難な方へはその人の立場にたって考え、想いを汲むよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一律スケジュールの生活スタイルではなく利用者様の状況や希望に沿った支援に努め、その人のペースやリズムを大切に生活を送って頂いている。生活全般個性を重視したその人らしい時間の流れに重点をおいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に訪問理美容が入りその方や家族様の好みの整容がなされている。コロナ禍で馴染みのお店には出かける事ができなかったが日常では服を選んで頂くなど、おしゃれには自己決定が反映されている。言葉が発せられない方でも目で見てもらいコンタクトをとって支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	楽しい食卓の雰囲気作りを心掛け、盛り付け・配膳下膳・食器洗いも職員と一緒にしない男性の利用者様が食器洗いを手伝って下さることもある。テーブルや座席にも工夫をしユニット合同で食卓を囲み楽しんで頂くことも頻繁にある。彩り豊かな食事の工夫をし、目で見ても楽しんで頂けるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取の重要性について職員が理解し必要量の確保に努めている。その人の習慣や状態に合わせた栄養補助食品や嗜好品等も取り入れ個性を重んじている。坐位姿勢や環境も工夫し、自分の力で食事ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは欠かさず行っている。又訪問歯科往診を受け口腔衛生管理が行われ歯科医より指導を受けている。本人様の口腔状態に合わせ数種類のブラシやウェットティッシュ等を使用し衛生に努めている。食前の口腔体操も欠かさず口腔内機能の低下に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	それぞれの排泄パターンを把握し誘導を行ない、入居前の排泄方法に拘らずその人の力や思いを汲んで気持ちの良い排泄を支援している。オムツは使用せず、紙パンツもできるだけ使わないようにし、布パンツでの自立支援も行っている。前傾保持ができるファンレストテーブルも使用している。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	適切な水分摂取、適度な運動、食後のトイレ誘導等日々心がけ、自然排便ができるよう働きかけている。又医療職とも連携を図り便秘予防対策を行っている。繊維質の多い食事や、牛乳、ヨーグルトなど毎日提供し個々に応じた対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り希望に沿った入浴の支援をしている。時間や場所、曜日等、取り決めは行わず納得の上で自由に入浴して頂いている。別フロアでの入浴は、形状に合わせ、今日はどっちで入るか等楽しんで選んでいただき、仲良し入浴もある。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居前の生活スタイルを壊さない よう起床や就寝時間は要望に合 わせている。日中の午睡や居室 での休息も気兼ねなく出来るよ う、その人の習慣やその時の状 況に寄り添うよう努めている。 気持ち良く眠れるようその人の 望む環境整備も欠かさずにして いる。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬リストは全職員がいつでも どこでもすぐに確認できる場所 にファイルされている。又、薬の 理解に努め、症状の変化などが 見られた場合には先ずファイル で確認後、職員で連携を密に 図り速やかに医療職への連絡 を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	役割や楽しみ事、嗜好品をアセ スメントし、ケアプランへ反映 させ、日々の生活の中で継続し ながら達成に向けての気分転換 ができるよう支援している。個 別性を取り入れた支援を意識的 に取り入れている。新聞の購読 を楽しまれ、配達を個別で頼ま れている方も複数名ある。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	天気の良い日は戸外に出かける よう努めている。近くのお寺へ お参りしたり散歩や外出等希望 に沿っている。本人様の生活歴 を把握し、普段は行けない場所 でも家族様のご協力でご外出 できているが、今年度もコロナ 禍にて回数が縮小された。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	希望や能力にあわせ買い物が できるよう家族様同意のうえ支 援している。近くのコンビニエ ンスストアへ一緒に出かけ、本 人様が希望の品を選んで購入 することもある。本人様の力に 応じたお金を所持し、支払い できるような傍に寄り添ってい る。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人様が携帯電話を所持しているケースが複数ある。発信、受診、通話等間に入りトラブルにならないよう努めている。又手紙や年賀状等直筆で書いて頂く事を支援し、大切な人との関係を絶やさないようにしている。本人様の希望に沿い、可能な限り家族様との通話を支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースにも空気清浄機や加湿器を設置し快適に過ごしていただけるようにしている。空間には季節に応じた旬の花や置物を飾り季節感を演出している。混乱を招く様な物品等を除き、生活感のある居心地の良い共有空間づくりに努めた環境整備の工夫をし、定期的な見直しも行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースには食卓用のテーブルや椅子の他、違ったタイプのソファを2台置くことで思い思いに過ごして頂けるよう環境を整えている。その他玄関先のベンチでも気分を変えて過ごして頂いている。利用者様の希望で席替えや配置替えを行い、思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのある家具や物品等持参して頂けるよう家族様に依頼し、本人様の思いを生かした居心地の良い居室作りに努めている。大切な人の写真や作品等も自由に飾って頂き入居前のお住まいに近い形で家族様のご意向も取り入れた居室レイアウトを施し、安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	人感センサーを主に使用し安全に生活できるようにしている。トイレや居室の位置は分かり易いように目印を付けている。車椅子の方の目線に合わせた位置に表札を付ける工夫をし、できることやわかる事に活かせるようにしている。待つ姿勢と見守り・寄り添いで自立支援をサポートしている。		

V アウトカム項目( 2階 B棟 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい戸坂東

作成日 令和 4年4月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	看取りに関する経験者が少なく、緩和ケアに対して現場での関わりのみではチームケアの提供が不十分である。	最期までその人らしく過ごしていただける「緩和ケア」看取りの研修を2回以上受講し学びの機会をつくる。	終末期のあり方をチームで共有し、方針を決め、本人、家族様と話し合いを重ね支援につなげる。	6か月
2	13	人財育成を担う指導者不足。 指導者の育成。	人材育成。 新人育成。 次世代育成。	OJT制度を活用 誰もがトレーナーになり、トレーニーが育つチェックシート活用。	6か月
3	4	運営推進会議において町内会長様・民生委員様のご参加が難しい。	地域密着型としてのサービス向上。	運営推進会議に参加していただけるよう細目に働きかけ関係の構築を図り、ご意見等をサービスに反映させる。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。